

「ささゆりバス」で下山へ・・・交流事業への試み・・・

下山ささゆりバス委員会

岡崎市

団体概要

団体名： 下山ささゆりバス委員会

代表者： 委員長 杉浦 立美

団体目的： 交通空白地域での公共交通手段を確保するため、平成 19 年度から学区社会教育委員会が中心になってコミュニティバス運行準備を行い、平成 20 年 6 月に「下山ささゆりバス委員会」を設立し、「ささゆりバス」の運営と利用拡大を推進

活動地域

岡崎市下山学区

取組の経緯・背景と目的

下山学区は岡崎市北東部にあり、豊田市に隣接する典型的な中山間地で、昭和 45 年に名鉄バス路線が撤退してから約 40 年間は公共交通空白地域であり、学区と中心市街地とを結んで高校生の通学や高齢者の通院・買い物に利用できる交通手段の確保が地域の課題であった。

平成 19 年度から学区のコミュニティ事業を運営する学区社会教育委員会が中心になってコミュニティバス運行準備を行い、平成 20 年 6 月に「下山ささゆりバス委員会」を設立。そして平成 21 年 3 月から 2 年間、岡崎市の支援を受けて「下山乗合タクシー・ささゆりバス」の実証運行を開始した。しかし、人口が少なく、バス利用者は限られており、今後大幅な利用増加は見込めないため、「市街地からの来訪者を呼び込む工夫」として、「ささゆりバス・ウォーキング」を、山間地域の住民と都市住民との交流及び住民が地元のよさを見直すきっかけとするために企画した。

下山ささゆりバスの概要	
運行日	平日毎日運行（年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日まで）、祝日は運休）
運行状況	下山地区・北部診療所 ⇒ 岡崎げんき館前行き 4 便 （月・火・金曜日は北部診療所へ） 岡崎げんき館前 ⇒ 下山地区・北部診療所行き 4 便
フリー降車区間	豊田鉄工前から桃ヶ久保区間
車両	小型バス
運賃	下山地区内 200 円、下山地区 ⇄ 北部診療所 300 円 下山地区・北部診療所 ⇄ 洞町・市民病院・岡崎げんき館 500 円 （小学生以上高校生以下は上記の半額、未就学児は無料）

（平成 24 年 3 月時点）

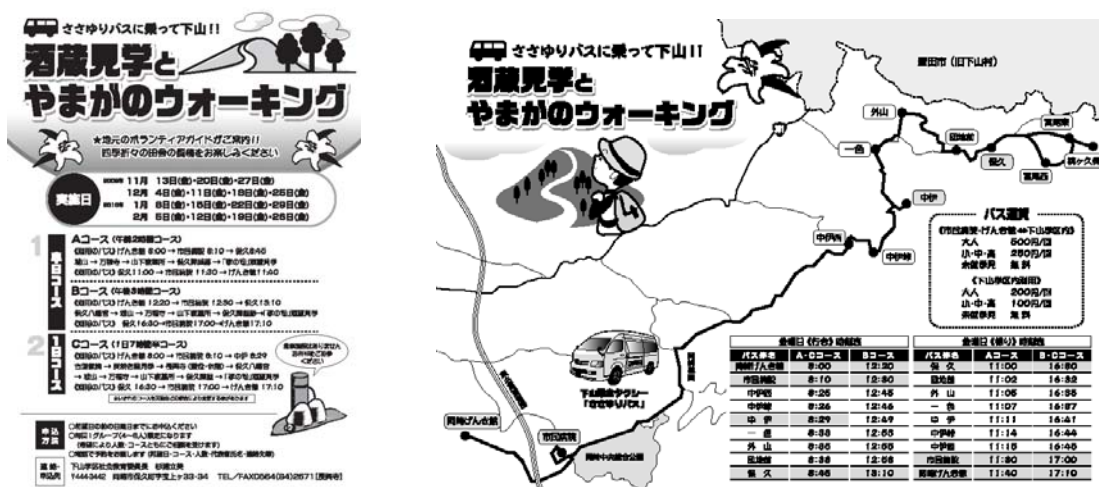
■取組のポイント

- ・バスを活用した中山間地域と都市住民との交流
- ・ボランティアガイドの養成による地域資源の再認識

■取組内容

○「ささゆりバス・ウォーキング」告知用チラシの作成

ウォーキングへの参加者を募集するための、チラシを 2,000 部作成し、市内の公共施設に設置。



案内チラシ

○コース案内板の製作・設置

下山学区は、中世から近世にかけて市内とは異なった歴史の経過があり、史跡なども残されており、自然環境も豊かである。地域資源を活かしたウォーキングを実施するため、コースを明示するための案内板を設置。

○ウォーキングマップの作成

参加者に配布するために、「見どころ解説」と「散策マップ」を掲載したガイドマップを作成。



ウォーキングマップ



ガイドマップ

○ボランティアガイド養成講座の実施

ボランティアガイドの養成のため「下山領主・山下氏と石川氏…中世から近世の動き…」をテーマに一般公開の講座（講座、現地学習）を開催した。講師は、岡崎市史編纂室の方に依頼。2回で延べ 30 人の地域住民が参加。



養成講座の様子



現地学習

○ウォーキングの開催

10 月から 2 月に 5 回のウォーキングを実施。また、参加者にはアンケートを実施。（参加者 計 20 人）



ウォーキング参加者の様子

■取組における展開方法・工夫等

- ・ウォーキング企画による新たな利用者の確保。
- ・地域住民が市街地の住民と交流することで、地元のよさを見直すきっかけとしている。
- ・ボランティアガイド養成は、決められた人だけでなく、一般公開の形式で講座を開催し、地域を知ってもらう機会としている。
- ・ウォーキングコースは、半日、1 日で回れるコースを設定し、時間に合わせて選択できるようにすることで、参加しやすい環境を整えた。
- ・山里の自然や地場産業である酒蔵を見学するコースを設定し、都市部の市民に中山間地の魅力を伝える地域性の濃い事業を展開。

■取組の結果

- ・ ボランティアガイド講座によって地域住民が改めて魅力を知ることができ、地域への愛着が生まれた。
- ・ ウォーキングの参加者からは、季節を変えて訪れたいという意見があり、関心を持ってもらうとともにリピーターの確保にもつながっている。
- ・ ウォーキングを開催する中で、地域の食材を買いたいという要望があり、「地元の物産品販売」の仕組みを作ることができた。



地元の物産品販売

モデル事業実施後の取組

■取組内容

○定期的なウォーキングの開催

春から初夏にかけて3回のウォーキングを実施。

○ガイドボランティアの育成「植物観察会」

地域の歴史的な史跡だけではなく植物などについても詳しくってもらうために、植物観察会を実施。

■取組における展開方法・工夫

- ・ ボランティアガイドの講座を定期的に設けることで、地域の魅力を伝えている。
- ・ 季節を変えてウォーキングを実施することで、リピーターの確保につなげる取組を展開。

■取組の成果

- ・ 地域の歴史や植物などに関心をもつ方が多くなり、意欲的な参加が増えている。
- ・ 平成 21、22 年度の実証実験を経て、平成 23 年度より3年間の実証実験が継続されている。
- ・ また、一定の利用者を平成 21、22 年度の実証実験で得たことで、平成 23 年度からの本格運行では、バス車両がジャンボタクシーから小型バスでの運行となっている。

今後の課題及び展望

- ・ 平成 21、22 年度の実証実験を経て、平成 23 年度より本格運行されているが、もともと人口が少ない地域であり、高校生の増減で利用者数が大きく変動するため、高校生以外の利用客の確保が課題。
- ・ 中山間地域であり過疎化という現実問題も課題である。バスの利用者の増加を図るためにも居住者を増やす取組も重要であり、今後は、地域の魅力をさらに向上させ定住促進も必要となる。
- ・ また、ウォーキングによる市街地からの利用者増加を図るためにも、地域の魅力を伝えられるガイドボランティアを育成し、地域全体でお出迎えできる体制づくりが求められる。